

「♪♪夏がくれば思い出す」

2023年8月14日

太田隆次

毎年、夏がくれば、誰しも思い出すことがありますね。

私の夏の思い出です。

1 高津時代の斎藤先生の夏の植物採集の宿題です。あるいは自由宿題だったかも知れません。

植物を一本づつ根から丸ごと抜いて、土をよく落として、軸と葉と花の部分を水でよく洗い、熱湯をかけて殺菌して新聞紙に挟み、乾いたら習字の半紙に貼り付けて重しを乗せて「べったんこ」にする。幸い裏山は生駒山の山麓の一帯で、採集植物には不自由しませんでした。

仕上げは、図書館の植物図鑑で植物の種類を調べて記入して、9月の新学期に提出すること、という指示だったと思います。

生まれてはじめてのそして最後のこの植物採集は、先生の講評と共に暫く部屋に飾って悦にっていました。

今おりしも、NHKの朝のテレビドラマで、かの牧野富太郎博士の生涯をかけた植物年鑑づくりのドラマ「らんまん」



が進行中です。自分の16歳の時のスルメ先生の宿題の思い出とダブります、

2. 高津時代の次の思い出は、2年D組の時に習った世界史担当の藤原国男先生の話です。

古代は世界どの国も、種まきから収穫までの農作業に合わせて一年間の暦は10か月であった。それが誰にもわかりやすかったから。ところが、古代ローマ帝国は途方もなく領土が大きくなり、地域ごとの季節の農作業がバラバラになり農業だけではなく海運や商工業や政治などが多様化して、太陽に農業を合わせた旧暦の「10か月制」（今の中国や日本にも旧暦の名残がありますね）は不便なので、古代ローマ帝国は世界に通じる暦として2か月増やして10月を12か月にしました。

古代ローマ帝国では元老院という議会で議論の末、増えた2か月の7月は、時の権力者のジュリアス・シーザから「JULY」、8月は同じく権力者の英雄のアウグススから「August」と決められました。「暑い夏」のAugustはこうして決まったのです。

3. 次の夏の思い出は、蚊帳です。

一昨日、NHKで「昭和の文化」と題する懐古番組がありました。トップバッターは蚊帳でした。

平安時代に遡るといわれる麻製の蚊帳はいつの間にか姿を消しました。蚊帳



の中に入る前につまんで横方向に勢いよく振ると止まっていた蚊は全部、外側に逃げる段取りでした。

蚊帳の中は2～4度低かったそうです。

4. 次の夏の思い出はおなじみの打ち上げ花火です。



打ち上げ花火は夏の欠かせぬ風物詩です。

今度行かれるときのご参考までに、大きさと価格です。

大きさ	号数	価格	上がる高さ	広がる直径
一尺玉	10号	5～10万円	300メートル	280メートル
三尺玉	30号	150万円	600メートル	600メートル
四尺玉	40号	250万円	750メートル	750メートル

国内打ち上げ花火生産高 年間50億円～200億円

終わり

